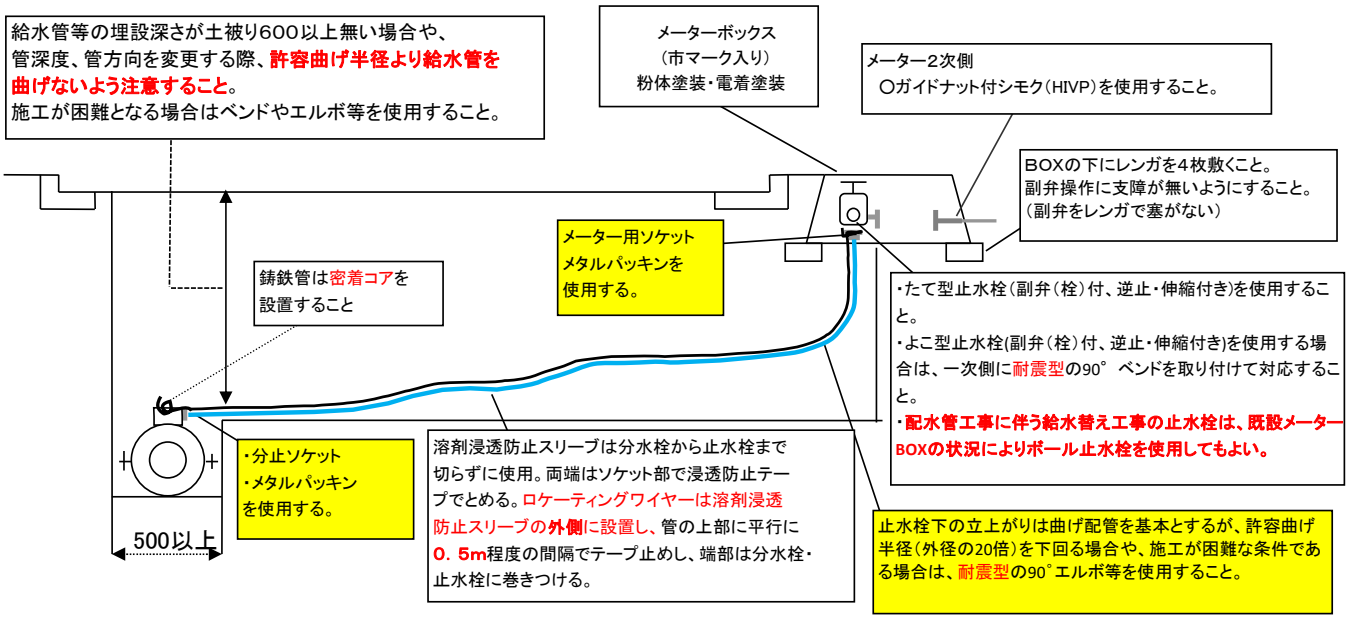
羽曳野市給水工事標準施工図(20mm・25mm)

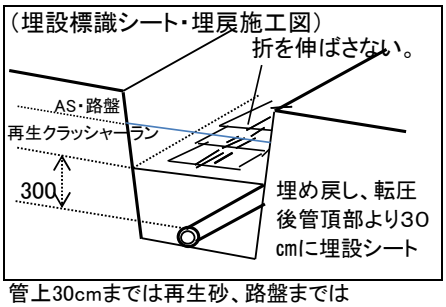
2025.4



・各継手は、耐震型（ワンタッチ、Pワン）を使用すること。
・配水用ポリエチレン管に設置するサドル分水栓については、原則メカ型のサドル分水栓を使用する。

○ サドル分水栓からメーター一次側の材料は(公)日本水道協会の認証製品とする

（埋設標識シート・埋戻施工図）



管上30cmまでは再生砂、路盤までは
再生クラッシャーランで埋め戻すこと。
AS復旧は3cm以上の合材を敷設すること。

（施工上の注意）

○ ポリエチレン管（1種二層管）を使用し、溶剤浸透防止スリーブを設置すること。挿し口部は必要に応じて面取りを行うこと。
○ 水圧テスト・穿孔・コア挿入は水道局の立会が必要。
（水圧テスト、コア挿入は工事写真に水道局職員が入る必要あり）
○ ・水圧テストは1.0Mpaで5分間静置後0.9MPa以上あれば合格とする。
・テストポンプは、分水栓に取りつけます。
・水道局職員が到着してから5分間の立会をします。
・分水栓【開】、止水栓【閉】で行います。

○ 穿孔時は、分水栓、止水栓（副弁（栓）含む）を全開にした状態で行うこと。
ただし、穿孔機で排水する場合は、止水栓を閉めて穿孔すること。

○ 工事写真は、施工場所、申請者名、施工業者名、水栓番号を記載し、取出管の管種・口径・寄り・深さ、引込管の管種・口径・深さなどを記載した看板と一緒に撮影する。看板に書いた文字等が後に確認できるよう留意すること。
○ 被分岐管が粉体塗装管の場合は専用の穿孔刃を使用すること。
○ 融着サドルを使用した場合はEF接合チェックシートを記入し、竣工時に提出する。

2次側について

○ 水圧、水量、水質は給水装置工事主任技術者の責任により検査必要。残留塩素は、0.1mg/l以上必要
○ 材料に関しては＊認証機関の認証製品であれば使用可能
○ 施工に関しては主任技術者の責任施工。（後日の事故等についても同様）

＊認証機関	(公)日本水道協会
	(財)日本ガス機器検査協会
	(財)日本燃焼機器検査協会
	(財)電気安全環境研究所